

大玉で糖度が高く食味が優れるモモ新品種「飛驒おとめ」

【要約】「飛驒おとめ」は、「川中島白桃」に「やまなし白鳳」を交配して育成したモモの新品種で、基幹品種の「白鳳」と「昭和桃」の中間時期に収穫でき両品種の端境期を埋めることができる。大玉で着色が良く、高糖度で食味良好である。

中山間農業研究所・試験研究部・宮本善秋

【連絡先】 0577 - 73 - 2029

【背景・ねらい】

飛驒地域のモモは、「白鳳」と「昭和桃」を基幹品種として栽培されているが、両品種の間には端境期が生じている。また、温暖化に伴って収穫時期が早まることで、お盆前の高需要期と端境期が重なること危惧されている。このため、「白鳳」と「昭和桃」の中間時期に収穫可能な県独自の品種を育成する。

【成果の内容・特徴】

1. 「飛驒おとめ」は、晩生の「川中島白桃」に早生の「やまなし白鳳」を交雑して得られた実生の中から選抜された。大玉で食味が優れることから、2012年11月に品種登録を出願し、2013年12月16日付けで品種登録された（第228943号）。
2. 樹勢はやや強く、樹はやや大きくなる。1年枝上の花芽の着生は非常に多いが、葉芽の着生は少ない（表1）。
3. 発芽期および開花期は、「白鳳」や「昭和桃」より2～3日早く、花粉は少ない（表1）。
4. 収穫期は育成地において8月中下旬で、収穫始期は「白鳳」より11日遅く、「昭和桃」より6日早く、両品種のほぼ中間に収穫できる。このため、基幹品種の端境期を埋めることができる（表2）。
5. 果実はやや腰高の円形で、平均果重は320g程度と大玉である。片肉果の割合が少なく着色良好で、果実の揃いもよく外観が優れるため秀品率が高い。年によって多発する核割れ果やミツ症果の発生は少ない（表2）。
6. 果実糖度は16%以上と高く、酸度（pH）は4.9、硬度は2.3kgである。肉質、果汁、香气共に中程度であるが、甘味が非常に強く食味は良好である（表2）。

【成果の活用・留意点】

1. 当面は岐阜県内に限定して栽培を許諾する方針である。
2. 飛驒地域以外での適応性は未検討なため、導入にあたっては関係機関とよく相談すること。
3. 凍害による枯死樹の発生を防ぐため、台木には「ひだ国府紅しだれ」を使用する。
4. 葉芽が少なく枝がはげ上がりやすいため、切り戻しせん定を適宜実施する。
5. 花粉が少ないため、着果不足が心配される栽培条件下では、必要に応じて人工授粉を実施する。
6. 無袋栽培も可能であるが、病虫害防除と着色向上を目的として、二重袋による有袋栽培を基本とする。

【具体的データ】



図1 「飛驒おとめ」収穫直前の果実

表1 「飛驒おとめ」及び基幹品種の樹体特性(2009～2013年の平均)

品種名	樹勢	樹の 大きさ	花芽の 着生	葉芽の 着生	発芽期 (月/日)	開花期(月/日)			花粉の 多少	生理落果 の多少 ^z
						始期	満開期	終期		
白鳳	中	中	多	中	3/28	4/28	5/1	5/6	多	少
飛驒おとめ	やや強	やや大	多	少	3/26	4/26	4/29	5/5	少	微
昭和白桃	中	やや小	多	中	3/29	4/29	5/2	5/7	多	中

^z 二重袋による有袋栽培での発生状況

表2 「飛驒おとめ」及び基幹品種の収穫期と果実品質(2009～2013年の平均)

品種名	収穫期(月/日)			果形	果重 (g)	片肉果 の多少	着色	玉揃い	秀品率 (%)	糖度 (Brix)	酸度 (pH)	硬度 (kg)
	始期	盛期	終期									
白鳳	8/3	8/7	8/13	円形	298	少	中	中	51.0	15.9	4.7	1.5
飛驒おとめ	8/14	8/20	8/25	円形	319	微	多	良	78.1	16.7	4.9	2.2
昭和白桃	8/20	8/24	8/30	扁円形	379	中	中	不良	57.0	17.1	4.6	2.3

研究担当者：宮本善秋